

新赤レンガ募金通信

募金総額5億7千万円(含基金)に！ 文学部と経済学部が創立百周年記念募金を 新赤レンガ募金ではじめました！

新しい学部、学科を設置した立教大学の転機ともいえる2006年も半年が過ぎました。4月以降、新入生を二つのキャンパスに迎え、賑やかに大学生活がスタートしております。

少子化時代に立教大学が社会で輝き続けるためには、不断の大学改革が必要です。この改革を支えるのが新赤レンガ募金による基金です。2004年からスタートした新赤レンガ募金も残すところ2年半となりました。お蔭様で「奨学金基金充実募金」はご存知のとおり目標額を達成しておりますが、赤レンガ建造物の維持・保存及び教育・研究施設整備等充実のための「キャンパス整備充実募金」は目標額5億円に対して、2億5千4百万円とようやく半分に達したところで、

「年に一度は新赤レンガ」を合言葉に、校友の皆様のさらなるご協力をお願い致します。なお、ご寄付のお気持ちは、口数、金額にかかわらず、すべて有難く受けさせていただきます。

「寄付金付年賀状」 募金活動の新たな取り組みとして、幅広く、また気軽に皆様にご協力いただけるよう、「寄付金付年賀状」を企画しております。年賀状の印刷料金の15%を立教値引きとして皆様へ、15%を新赤レンガ募金として大学に頂くものです。一般にはない、立教オリジナルデザインの新年賀状を現在作成中です。詳細のパンフレットはセントポール10月号で送付させていただきます。どうぞご期待下さい。

ホームカミングデー開催当日の遺言信託相談コーナー
10月29日(日)に開催されるホームカミングデーにおきまして、三菱UFJ信託、りそな銀行が、皆様の不安にお応え出来るよう、遺言信託についてのご相談を承ります。プース設置の都合のため、ご関心のある方は、あらかじめ募金・渉外課(☎03-3985-2677)にご連絡下さい。

募金速報 (2006年5月31日現在)

区分	宛先	キャンパス整備		奨学金	
		金額	件数	金額	件数
個人	法人	129,257,800円	68件	143,150,000円	11件
	校友	30,813,843円	791件	8,155,600円	148件
	教職員(含元教職員)	25,604,591円	324件	6,199,528円	130件
	一般篤志家	632,000円	21件	80,000円	3件
個人小計		57,050,434円	1,136件	14,435,128円	281件
団体		67,771,927円	65件	638,985円	15件
合計		254,080,161円	1,269件	158,224,113円	307件
総計		412,304,274円			
目標額		500,000,000円		150,000,000円	
赤レンガ基金残額		166,619,426円			
総累計		578,923,700円			

「募金協力記念品の贈呈」
ご協力いただいたすべての方に、立教オリジナルしおり(本革製を、個人で寄付額の累計が5万円に達した方には、デザインを新しした立教オリジナルウォッチを差し上げます(写真参照)。ウォッチの文字盤は白と黒の二色があります。調整しなから送付させていただきます。あらかじめご

「免税措置」
本学への五千円以上の寄付は特定公益増進法人に対する特定寄付となり、確定申告の際、年間所得額の30%を限度として所得控除の措置を受けることが出来ます。



「問合せ先」
立教大学募金・渉外課
03-3985-2677
☎各学部奨学金問合せ先については、各学部となります。
文学部 ☎03-3985-3339
経済学部 ☎03-3985-2327

経済学部百周年記念奨学金 へのご支援をお願いいたします

経済学部は2007年度に創立百周年を迎えます。この間、2002年度には会計ファイナンス学科を開設し、本年度(2006年度)には経済政策学科を開設し、経済学・会計・ファイナンス学科・経済政策学科の新しい三学科体制を整え、さらなる発展を目指しています。これによって経済学部は、①理論・歴史、②現実分析、③政策形成という三分野のバランスのとれた学科構成と、教員学生比率の大幅な改善とを実現しました。

既報のとおり、創立百周年記念事業として「経済学部百年史」の編纂、記念シンポジウム等の開催を企画しておりますが、あわせて2007年度から、経済学部学生を対象とする、給与奨学金(経済学部百周年記念奨学金(仮称))を新設します。

学部長 小西雄
学部学生から毎年論文を公募し、最優秀論文提出者に30万円、優秀論文提出者に20万円、それぞれ20万円を支給します。この奨学金の目的は優秀な学生の学業を支援し奨励するとともに、これによって全学生の学習意欲を刺激することを目的としています。

文学部百周年記念奨学金への 支援をお願い申し上げます

文学部は来年度に創立百周年を迎えます。大きな曲がり角にさしかかっている現代社会のなかで、人間と何か、常に問いかけてきた文学部の存在意義は、ますます強くなるように思っています(文学部が百周年記念事業にこめているメッセージは、本誌前号をご覧ください)。また、今年度の秋に展開される記念事業はホームページ <http://www.rikyo.ac.jp/gpbun/100/> をご覧ください。

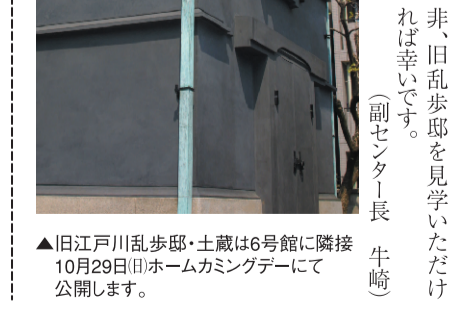
「1期間」
2006年度からスタート。百周年記念事業が終わる2008年度を超えて、継続したい。

「2基本的枠組み」
学業表彰と留学奨励の二本の柱。
「3学業表彰奨学金の基本プラン」
文学部の卒業論文、文学研究科の修士論文の優秀者を卒業式・修了式において表彰する。各学科・専修の卒論優秀者8名十各専攻の修論優秀者9名に表彰状と記念品(3万円前後)。
「4留学奨励奨学金の基本プラン」
認定校に留学する成績優秀者5名に各20万円を給与。国際的な視座を持つ人材を育てるため、協定校(大学からの支援あり)以外の大学に留学を希望する学生を支援する。

江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが発足しました

立教大学は、2002年、6号館に隣接する江戸川乱歩邸及び関連蔵書・乱歩愛用品を、乱歩の次男平井隆太郎先生(元本学社会学部教授)から譲り受けました。以来、江戸川乱歩邸の修復及び関連蔵書の整理・データ入力に3ヶ年計画を進め、2005年度末に終了に到りました。これを機に、大学内に「江戸川乱歩記念大衆文化研究センター」が本年6月に発足することになりました(センター長は藤井淑禎文学部教授)。校友の皆さまの中にも、昨年度の学院創立130周年記念事業「江戸川乱歩と大衆の20世紀展」(会場 池袋東武百貨店、学内で昨年開催した「江戸川乱歩旧蔵江戸文学作品展」)あるいはホームカミングデーでの旧乱歩邸公開等で、大学の取り組みをご存知の方も

「多いかと思われず」
大衆文化研究センター設立の目的は「乱歩を記念する大衆文化研究活動の学術的拠点を作り、かつ、江戸川乱歩に関連する諸事業を通して、地域協力と社会還元を促進すること」にあります。この目的を達成するために、(1)大衆文化に関する研究及び調査、(2)江戸川乱歩関連資料の収集、整理(建物等の整備を含む)を保



▲旧江戸川乱歩邸・土蔵は6号館に隣接
10月29日(日)ホームカミングデーにて公開します。

KEEP国際研修交流センター 整備事業いよいよ今秋着工開始

キープ総合計画「教育と環境のプロジェクト」は第1期ユースキャンパス宿舎棟・キヤビン棟90名収容の完成に続き、第2期整備事業KEEP国際研修交流センターも2008年1月完成4月供用開始に向け、今年9月着工することが決定しました。

「金調達に奔走しているところであり」
幸いに昨年は立教大学教職員(押見輝男前総長、立教大学校友会(松崎昭雄会長)、経済人クラブ(佐藤雄二朗元会長、坪野谷雅之前会長)、聖公会関係学校やYMCA他、企業、団体等大変なご理解とご支援を賜り、7月10日現在1312口(総額113,157,692円)の寄附金を頂戴することができました。感謝を持ってご報告します。

「又本年6月には、コロンバス、オハイオ州に於いて、第75回米国聖公会総会が開催され、私も急遽参加して参りました。会期中、KEEP日米合同募金委員会の募金説明会やレセプションを開催、会場が満員となる約200名近いキープの支援者や知日家、親日家の方々の参集をいただきました。

「財団法人キープ協会 専務理事 正木実」
存、(3)江戸川乱歩関連資料及び研究成果等の公開、広報及び社会還元、(4)その他の諸事業に取り組み計画しております。
旧乱歩邸内の母屋や離れを改修して研究室や事務室を設けて発足したばかりのセンターですが、今後の取り組みにどうかご支援をいただけましたら幸いです。また、今秋のホームカミングデー(10月29日(日))にお運びの際には是非、旧乱歩邸を見学いただければ幸いです。
(副センター長 牛崎)